



令和3年度 4月 人権一口講座



「スタートにエール」

「西原公園児童館事務所」が、先月までふれあい文化センターに「同居」されていた。建物の耐震工事が昨年8月から開始し終了するまでの毎日、児童館の職員さん達と挨拶を交わすことが日課となっていた。その挨拶は、相手にしっかり届くように元気良い挨拶で、毎朝すがすがしい気持ちになった。職員さんと毎日顔を合わせるのも嬉しいことであったが、それに加え児童館活動で来館される利用者の方々との顔を合わせた会話をすることに、ワクワク感を抱いていた私である。

児童館の活動は、主に火・水・木の午前に実施され、小学生の活動は土曜日が中心であった。当ふれあい文化センターは月水金曜日に高齢者向けの入浴サービスを実施している。児童館の活動日と重なるとエントランスロビーが大勢の人でにぎわう。「密にならぬよう」にと気を付け案内をするのだが、見慣れぬ場所に連れてこられた乳幼児は大泣きをしたり、走り回ったりする。けれど、高齢者の方はその様子を見ても決して怒ったりはしない。それどころか優しい視線を向け、乳幼児をほほえましく見つめてくれている。こんな様子を見ると、「小さい子どもを見かけて声をかける機会が少ないから交流を持てたらいいなあ」とセンターでの新しい取組について考えるきっかけとなります。

冬の間、当ふれあい文化センターも感染症拡大防止策のため「休館」となり、再開したかと思っていた矢先「西原公園児童館」工事終了の知らせが届き、職員の皆さんともお別れとなった。そして、子ども連れで来館されるお母さんたちの姿や小学生の姿を見ることも無くなった。

乳幼児を温かく見守ってくれた高齢者の視線は、これから育ちゆく若い人を見守る温かい視線でした。これからの社会が「優しさ」や「おもいやり」があふれているといいなあと思います。「人」を人として尊重し、だれもが傷つかぬよう幸せに暮らせる社会づくりに寄与できるようにになりたい。そんな施設になりたい、一翼を担う職員になりたい。私は今、強く思っています。

春、四月。新しい職場や学校、または新しい住人とのご近所付き合い等、いろいろな事が始まると思います。皆さんお一人お一人が幸せに生きる社会実現・自己実現のためのスタートとなるかも知れません。そんな、きつとある数多くのスタートに、心から「エール」を送りたいと思います。

「新しいスタートですよ。頑張りましたよー！」

(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」令和3年度 四月号より)



短いメッセージ 「おはよう。」 「ありがとう。」 えがおをプラスすると 心がうんと伝わるよ

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 五福小学校3年 木村 雨咲さん(令和2年度の作品より)